

まちがいはなし

2枚の絵を見くらべて、まちがいを8カ所見つけてね。全問正解された方のうち、抽選で10人の方に図書カードをプレゼントします。

応募締切 11月13日(金)

とうふねこ座：市川雅子 画



秘書広報課 ☎66♦1145

応募方法

ハガキまたはファックスに①答え(左の絵に○をつける)②住所③氏名(ふりがな)④年齢⑤電話番号⑥広報紙の感想、「こ意見などを書いて秘書広報課(〒443-8860)1F FAX 66♦1190)へ。なお、当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

金蔵防(平田町)

西田川沿いの上がって、川を挟んで市民病院の反対側あたりに薬師寺がある。昔、この薬師寺に金蔵という山伏が住んでいた。さまざま修行を重ね、不思議なオーラをピンピンだしていった。ある時、汚いものを持って薬師寺の前を通ろうとしていた男の子が、「わあ、急に足が動かなくなっちゃったよー」そんな汚いもん持って薬師寺さんの前とおるとはなんちゅうもつたいないことを！南無南無！ほれわしの手につかまれ」また、金蔵坊が護摩をたいてお祈りしている時、「この前助けてくれたおじさん、見てみて！海の沖を通る舟が帆をおろして」

「ほづじゃのー見えるか？ほづす、今漁師さんらは真言を唱えておるんだわ。無事に通らせてもらえようにな」

「おじさん、薬師寺さんの前に籠がかがかると、いつも誰かが魚や野菜をいれるんだけど」

「村の者たちの気持ちなんじゃよ」

村の人たちはいつも不思議なオーラの金蔵坊を頼りにしていた。

ある時、金蔵坊が村の人に、「わしはすでに化縁が尽きたから帰ることにするわ。これから命ある限りほら目を吹くが、ほら目の音が途絶えたらわしに土をかぶせてくれ」と頼んだ。

金蔵坊は自ら深い穴を掘り、定に入った。その日以来幾日も村人たちは細く長く響くほら目の音を聞いた。

しばらくして、音が消えた。村人たちが穴へ行って見ると、金蔵坊はまるで生きているかのようにほら目を持って座った状態でじくじくになっていた。それから、村では2月の初午の日に金蔵坊のお祭りをするようになった。

金蔵坊のお祭りは、市民病院の東側、旧国坂街道沿いの丘の上の「金蔵防」の石塔で行われます。現在は2月の第2日曜日です。丘には参拝のためにテラスが造られました。

石塔の「金蔵防」の「防」の字は、金蔵坊の不思議なオーラで村全体を災害から防ぐ、という意味だそう。

「金蔵防」の石塔の近くに薬師寺開祖の松並通全の石塔があります。寺院明細書によると、松並通全が鳳来寺から授かった薬師如来に、「是より南海なる平の田面に吾を移すべし」と告げられ、この地に着いてお堂(薬師寺)を建てました。「平の田面」をもって平田となったそうです。

【参考資料】 蒲郡風土記 寺院明細書 蓬萊山薬師寺

◆9月号の答え

